

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2073400497	
法人名	社会福祉法人 長野市社会福祉協議会	
事業所名	鬼無里介護サービスセンターなかよしハウス	
所在地	長野県長野市鬼無里日影6711番地1	
自己評価作成日	平成24年9月17日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成24年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる環境の中で、季節を感じながらみんなで協力し生活しています。職員は入居者のみなさんそれぞれの役割や個性を受け止めて、毎日安心して穏やかに過ごして頂けるよう支援されています。また今年度より担当制を設けたことで、以前よりさらに深く利用者や家族とコミュニケーションが取り、個別に対応した支援が行われています。地域の方々の協力のもと交流も行われ、今後も住み慣れた地域でいつまでも楽しく生活ができるよう職員一同お手伝いをさせて頂きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「四季おりおりの変化に富んだ山々と清らかな水の湧き出る豊かな自然に恵まれたこの地域で安心して暮らせるゆったりとした時間をくつろげる場所の提供を提供いたします」と理念の冒頭に書かれているように、このホームで過ごす利用者にとって方言や馴染みの環境が安らぎと安心のある空間となっている。今年から利用者の担当制が開始され、利用者の思いに寄り添った支援をする事ができ、利用者家族とのコミュニケーションも取りやすくなっている。職員も更なる利用者へ寄り添ったケアに努めている姿が読み取れた。また、ホーム便りが発行され、地域から離れた住む利用者家族にとって、日々の利用者の様子が報告されることができ、家族の安心にもつながっている。家族会も定期的に年2回開催され全員の家族が集まり、交流の場となり、利用者にとっても楽しみの場になっている。今後、更に高齢化している利用者の重度化への具体的な支援できる体制に努める事を期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての家族と
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらいと
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある			1. ほぼ毎日のように
		3. たまにある			2. 数日に1回程度
		4. ほとんどない			3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. 大いに増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		4. ほとんどいない			3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての職員が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらいが
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての利用者が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらいが
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての家族等が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらいが
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			4. ほとんどできていない
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>運営理念・方針を掲示し、踏まえたうえで入居者一人ひとりに何が必要か考え1日1日を大切に安心した生活が送れるよう理解し実践している。</p>	<p>管理者、職員は利用者を中心に、日々、自己尊重を意識し、支援することを話し合っている。利用者の担当制が始まり、細やかな観察の中で職員の話し合いがされ、安心した馴染みの地域で過ごす様子が伺える。運営推進会議などでもホームの理念の発信を行っている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>小学校で行われた音楽会への参加や中学生より、ふきの贈呈があった時は一緒に皮むきを行ったり 地区のお祭りを見学に行ったりと交流が行われている。</p>	<p>天気の良い日は、散歩に出かけ地域との交流が図られている。地域の方から野菜の差し入れがある。毎年小学校との交流で音楽会の参加、ふきの皮むきを一緒にいき、神社のお祭にも参加し、日々の住民との交流がある。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方々とともに防災訓練を行っている。入居者と実際に関わることで認知症を理解し、あたたかく見守って頂いている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、入居者の現状報告や活動内容等を報告し意見を頂いている。その中では地域性を活かした意見もたくさん聞くことが出来る。</p>	<p>運営推進会議は、2カ月毎に開催されている。区長、老人会、民生委員、包括支援センターが出席する。ホームの現状報告・活動報告があり、運営推進会議の方から地域の行事などの話があり、四季の行事に取り入れる等意見もたくさん聞く良い機会になっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p style="text-align: right;">平成24年10月18日</p>	<p>運営推進会議の市担当として、地域包括センター職員が委員として参加され、相談や意見を頂いている。</p>	<p>運営推進会議に、包括支援センター職員が出席しホームの取り組みへの理解がなされ、意見等頂く機会がある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>事業所内では身体拘束は行われていない。各職員も研修などで理解をしている。拘束を行わないケアを行っている。</p>	<p>職員に対する研修は法人全体で行っている。オムツはずしのある利用者について、拘束せずに対応できる方法を日々相談し実行している。また、帰宅願望のある利用者も一緒に屋外に出掛け、散歩することで落ち着く利用者もおられ、拘束のないケアに努めている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会に参加をし、理解を深めて行くとともに職員会議で各入居者のケースを話し合うことで虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会等に参加をして、理解を深め知識の習得に努めて行く。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書 を用いて説明をし安心、理解 をして頂けるよう努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設内に要望箱の設置や苦情解決体制について掲示している。また家族が来所された時には話しを伺うことで要望を受けて迅速に反映されている。</p>	<p>意見箱の設置がなされているが、意見のあるときは直接伝えてくれる。アンケートは、サービス向上として法人が行っている。年4回のホーム、だよりにより利用者の状況を伝えるシステムができ、喜んでいただいている。家族会も年2回行い、全員の家族が出席し、意見を聞く機会がある。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議を通じて、職員 管理者 事業所長とともに積極的な意見交換が行われ反映されている。</p>	<p>事業所所長と職員の面談は年に1回あり、意見等あるときは聞くシステムがある。定例会は毎月1度行われ、所長、管理者も出席し意見等言いやすい環境にある。意見も言いやすい環境にあり、話し合い実行に移すことが多い。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	事業所長が定期的に面談等を行い、職員の日頃の勤務状況を把握し処遇への反映、向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修が定期的に行われており、学習できる機会を多く持っている。また行事等担当制を設け各職員責任をもって努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修を通じての交流を図っている。同業者との勉強会・交流会は年々盛んになっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時には可能な限り本人と家族とで施設見学をして頂くとともに普段の生活の中で入居者が不安に思っていることや要望に耳を傾けながら安心の確保に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や不安を聞き入れ話し合うことで、入居者、家族、職員が信頼関係を築けるよう努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人とその家族が必要としている支援を見極めた上でアドバイスをしている。在宅介護支援センター・地域包括センター等にも相談をし、対応方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの体調を考慮しながら、洗濯物たたみ、食事作り等得意なことを中心に行っている。時には入居者に教えてもらうこともある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は家族と話すことで施設での様子を理解して頂きながらいちばん必要な支援をとともに考えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力をして頂き、可能な限り外出や外泊をお願いしている。また友人等の面会も家族を通じていつでも来所出来るようになっていく。	この土地を離れ、地域外に住んでいる家族が多くなっている。毎年、年2回は家族会を開き、利用者と楽しく過ごす時間を持つ工夫をしている。全員が出席し楽しく過ごしている。家人が墓参りに連れていく等住み慣れた地域に出掛けコミュニケーションがとれるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には職員が話題を提供し、入居者同士が良い関係を保てるよう努めている。また一人で居室で過ごしている入居者にも目配りを心がけ、必要に応じて声掛けをし孤立を避けるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も築き上げた関係性を大切に相談や支援を行い関係を断ち切らないよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで、一人ひとりの思いや意向を把握できるように関心を持ち、利用者がその人らしく暮らしていけるように努める。	利用者は「自分たちはこうしたい」といわないが、住み慣れた家に帰っていないことから、担当職員が誕生日プレゼントとして提案し、夫婦で帰宅し近隣の方との会話ができた。遠くに住む家族も来てくれ、笑顔に過ごす時間が作れた。本人本位の意向の把握の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに考慮し、本人や家族等と顔馴染みの関係を築きながら、生活の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合的な心身状況を把握し、本人の出来る力、分かる力を見出していくことに努める。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室担当者からの現状報告や意見を出し合い、モニタリングを行っている。また家族とも話す機会を設け現状から意見交換をし、介護計画につなげている。	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。モニタリングは担当制が行われるようにきめ細やかに一人ひとりの「できること・できないことシート」を利用する。課題の変化やケアの方法がわかりやすく表され皆と共有し介護計画の見直しにつながっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は各個人記録に残すとともに、毎日2回行われるミーティングで情報を共有することが出来る。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	診療所の往診、訪問理美容、福祉用具購入時の配達等サービスの多機能化に取り組んでいる。家族での通院が不可能な時移送サービスを紹介、利用され喜ばれた。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害に関しては防災訓練を通し、可能な限りの情報を公開し地域や消防署等の協力を得られる関係作りを行っている。小中学校から交流会等への招待を受けたり教育関係からも支援を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>地域診療所医師に主治医として対応してもらっている。2カ月に1回往診を行ってもらうとともに入居者の体調変化への迅速な対応が出来るよう支援している。</p>	<p>地域診療所の主治医が2カ月毎の往診している。急な変化や体調の変化の時は随時往診をしていただき、専門医療へは家族に依頼し受診が行われる。歯科受診は移送サービス利用で職員が対応し、随時家族への連絡を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>地域診療所の看護師と相談することで適切な対応が受けられる。またそこから受診につなげることができている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院期間中は家族や医療従事者と連携を密にし、早期退院に向け支援し、可能な限りグループホームでの生活が継続できるよう支援している。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に説明をしている。その状況になったときは改めて関係者と話し指針を確認していくが、家族の意向が変わることがあることを考え現状を普段から話すとともに、その都度話し合うようにしている。</p>	<p>重度化への支援については、ホーム利用時に説明を行っている。ホーム内での重度化に対してどこまで対応できるか等、終末期の在り方については、今後家族会で説明をし、理解を得いく予定である。</p>	<p>高齢化してきている利用者にとって、重度化や週末ケアについては大きな課題となってくる。住み慣れたこの家で重度化の対応として地域、家族との支援を受け何ができ、何ができないかを家族又は運営推進会議等通し相談しながら、安心したチーム支援を期待したい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員の半数以上が積極的に普通救命講習を受講している。緊急時の職員連絡体制も整備し、職員がいち早く駆けつけられるよう訓練も行われている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を行っている。近隣住民の方も一緒に訓練に参加され協力体制が取れている。</p>	<p>年に2回の避難訓練、防災訓練に取り組んでいる。近隣の住民の協力を受け訓練を行った。人里離れた環境で地域支援の不安もあり消防署から指導等を受けている。昨年スプリンクラーが設置された。部屋の入口に避難方法のカードが明示され避難方法がわかりやすくなっている。</p>	<p>夜間は一人夜勤となり、災害時には不安がある。消防署通報等初期対応として、利用者の安全を考えた時に何をすべきかを消防署と相談し応援が来るまでの行動を具体的に検討し共有することを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を受け入れ、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。言葉かけ一つにしても方言等も含めそれぞれにあった声掛けを行っている。	プライバシーへの研修は法人で毎年職員全員に行い、十分プライバシーの確保、一人ひとりの人格尊重に理解がある。地域性から、利用者は方言での会話がとても安心感がある。日々の生活の中で言葉かけなど行き過ぎた声かけなどには十分注意し対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援にあたっては本人の意向を尊重するためにも同意を得てから実施している。また遠慮してしまわないような声のかけ方にも気を配っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から提案をすることはあるが、基本的に無理強いせず本人のペースに合わせて支援にあたっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自ら選択出来る入居者には本人に選んでもらっているがその時に応じては職員と一緒にやっている。また2カ月に1回訪問理美容を利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ときにはみんなで話をしながら野菜の皮むき等食事作りを行う。味付けや、作り方のコツ等職員が入居者に教えてもらいながら作ることもある。	ホームの庭先に畑があり、地元の食材を利用し食事作りをしている。一緒に野菜の皮むきをしたり、食器洗い等も一緒に行っている様子も見られた。一つのテーブルを囲み利用者との会話を楽しみ食事をしている。行事には外食の楽しみ、家族会には一緒に食事作りの楽しみがある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックしてバランス良く摂取できるよう気を配っている。水分量がすくない入居者には好きな飲み物を聞いたり別のものを提供したり、考えながら支援にあたっている。義歯を利用されている方や本人の好みにも出来るだけ考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>声掛けや半介助にて出来る限り本人のペースで行えるよう促している。また就寝前は義歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄をしてもらえるよう声掛け、誘導も含めて支援をしている。日中、リハビリパンツから布パンツに挑戦されている入居者がいる。</p>	<p>オムツはずしの利用者への対応について、皆と協力し、布パンツに挑戦している利用者もいる。夜間でもトイレに行く時は、職員が付き添い介助を行う。自分でトイレに行く利用者が多く手引き歩行で声かけしトイレ誘導する姿も見られ、自立支援の様子がうかがえた。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日頃の体調管理の中で排泄チェックを行うとともに水分摂取の声掛け、野菜を中心とした食事に気を配っている。また便秘が続く入居者には医師に相談をし、下剤を処方してもらっている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴はその時の体調、本人の意向を確認した上で行われている。その時に入浴されなく後で入浴したいという気持ちになっても、対応が来ている。</p>	<p>毎日入浴ができる体制が整っている。利用者の状況により、また入浴を拒否される利用者も無理せず、時間をずらしたり、入りたい時に入る体制を整えている。</p>	<p>入浴を楽しむ支援として、季節ごとに菖蒲湯などを含め、入浴を楽しむ工夫等も今後の検討課題として期待したい。</p>
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活パターンの把握に努め日中の活動を活発にし適度な疲労感から自然に休めることを基本に考え支援している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内容・目的・副作用等を理解し状態の変化を確認し、服薬支援に努めている。また誤飲がないよう各利用者が確実に服用したことを確認している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ることを見出して役割をもち、それを自信や活力につなげられるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や筋力の維持のため極力散歩に出るようにしている。また音楽会や交流会と言った行事にも可能な限り参加している。 外食は大変喜ばれていた。	天気が良い時は、散歩に出かけ気分転換の時間も作っている。また、行事外出もあり、車で昔利用者が働いていた場所を通り懐かしんだり、外食に出かけ喜んでいただいた。また、家族と近くの温泉に行き過ごす利用者やお墓参りに行く利用者もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭は、家族の了承のもと自己管理している入居者もいる。 散歩を兼ねて近所の商店に買い物に出かけることもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話の際には話が出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理 整頓 掃除 が常に行き届くよう努めている。また居間にある こたつ は入居者がいつも集うことが出来る空間となっている。	共有スペースである食堂の続きに大きな炬燵があり、いつでも利用者が集える場所となっている。また、食堂は日中利用者がいつも職員の声や食事作りの音、匂いがする安心して過ごせる空間である。廊下のベンチもちょっとした休憩できる空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファ やコタツリビングテーブル等それぞれに過ごせるよう設置し、廊下にはベンチを置き一人で過ごしたり気の合う仲間とくつろげる空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品々、家族や本人の写真等を飾り本人の空間となっている。自室でゆっくりと読書をされている入居者の姿も見られる。	居室内は、フローリングにベットが備えられているが、利用者の家族が本人の馴染みのものを持ち込み、家族写真が置いてあったり、読書を楽しむ利用者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室入口には名前プレートがあり、居室が分かりやすくなっている。またトイレや浴室にも分かりやすいように表示をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化に対しての家族の希望と施設で何ができるかということを改めて確認していく必要がある。	各家族と重度化についての支援方法、方向性をつめていく。	再度、家族と話し合いを行い指針を確認することで安心した生活が送れるよう取り組んでいく。	6ヶ月
2	35	夜間時の職員1人での災害対策について改めて対応を考える必要がある。	夜間の安全対策について、安全で効率の良い対応方法を改めて確認していく。	他施設や消防署等に相談をしながら具体的な方法を考えていく。	3ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。